

2011年度 社団法人 長浜青年会議所 事業報告書

総括概要

本年度第56代佐藤理事長の力強い所信のもと

基本方針 開地共鳴 志高く熱き情熱をもってまちを開き、
共鳴しあう繋がりを湖北の地に確立しよう

- 運営方針
- 湖北コア・イノベーション構想の具現化に向け、組織を開き、まちを開こう
 - 公益団体としての自覚を持ち、湖北を確信する先駆者であろう
 - 青年経済人としての資質向上に努めよう
 - 心を開き、志高き仲間達と理想を語り合い、共鳴しあう組織であろう

を掲げ、昨年度提唱した「湖北コア・イノベーション構想」の実現に向けた2年目を、更に具体的な運動展開を図る進化の年ととらえ、地域に広く発信し、多くの人々の参加を頂きました。その思いを実現するためにも必要なメンバー同士の団結と結束が生まれ、さらなる行動力が生まれる一年となりました。

重点事業報告

江・浅井三姉妹博覧会連携イベント

2011年度のNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」にちなみ、1月14（金）・15日（土）に東京会場（増上寺および東京タワー）にて、1月15日（土）に小谷会場・浅井会場にて江・浅井三姉妹博覧会のオープニングセレモニーを開催いたしました。浅井会場では浅井長政役の時任三郎氏による餅蒔き等が行われ会場を大いに盛り上げることができました。7月23日（土）には主演の上野樹里氏を迎えてのトークショー。そして12月4日（日）にはオープニング曲の作曲家・吉俣良氏をお迎えしファイナルイベントのコンサートを開催いたしました。この一大イベントも当初目標であった35万人の来場をはるかに超す118万人の来場を達成する事が出来ました。長浜青年会議所として市と連携し運営に携わることで、このイベントを成功させる一端を担える事が出来ました。



東日本大震災被災地への物資提供活動

3月27日（日）旧長浜市民会館跡地にて、3月11日に発生した「東日本大震災」の被災地に向けての支援物資および義捐金の募集を行いました。新聞各社の協力を得て募集記事の掲載や、長浜青年会議所ホームページでの呼びかけにより、季節はずれの寒波に見舞われる中、終了時間ぎりぎりまで沢山の市民の方々にお越しいただき、予想以上の物資や義捐金をお預かりすることとなりました。さっそく、多くの方々の祈りがこもった物資を近畿地区協議会が管轄する倉庫に搬送し、近畿地区協議会の支援情報本部を通じて確実に現地の被災者の方々に送り届けることが出来ました。我々長浜青年会議所が被災者のために情報を発信し、かつ行動を迅速に起こしていくことの必要性を痛感すると共に、湖北地域の方々の思いを被災地に届ける重要な役割を担っていることを改めて確認することとなりました。

物資

- ・ 水（2L300本）
- ・ 米（400kg）
- ・ おむつ（7300枚）
- ・ 醤油（10ケース）
- ・ 服・パンツ・靴下・電池・その他

義捐金 一般

128,041円
現役メンバー
670,752円
特別会員
1,009,895円



湖北コア・イノベーション構想推進事業

『みなみはま冒険王国!』

つなげワンピース!湖北の宝』

7月30日(土)～31日(日)、湖北コア・イノベーション構想推進事業「みなみはま冒険王国!つなげワンピース!湖北の宝」が南浜地区姉川河口公園で開催いたしました。総勢86名の湖北の子ども達が集い、12チームに割り振られた各々のチームメイトと共に、「つなげワンピースゲーム」では各所で与えられた課題に果敢に取り組み、琵琶湖では自分たちで作成したイカダに乗り、たくさんの自然に触れる事が出来ました。キャンプファイヤーでは星空の下、大声を競い合い、野外テントで宿泊しました。翌日は気球や竹トンボ作りなどの体験をし、楽しかった思い出の絵を書きました。子ども達は親元を離れ、日常にはない試みに挑戦しました。始めは少し緊張気味だった子ども達も様々な経験の中でコミュニケーションを取り合い、終盤にはチームの垣根を越えて意気投合していく様子はとても頼もしく感じられました。

第二部として企画した湖北文化ホールにおけるシンポジウムでは、基調講演の講師として栗木剛氏をお招きしご講演いただきました。その後のパネルディスカッションでは長浜市、米原市の両教育長と長浜市子ども会連合会会長、佐藤理事長に登壇頂き、湖北の子ども達の将来についての議論を繰り広げることができました。

琵琶湖が青々と広がり、晴天の下、広大で緑、豊かな環境の中をたくさんの子ども達が元気に走り回る姿がとても印象的でした。要所に施した熱中症対策もあり、両日とも夏真っ盛り炎天下の中ではありませんでしたが、心配した病人やけが人が出る事もなく無事親御さんの元へ帰す事が出来ました。子ども達は湖北の有する広大な自然や友人との触れ合いの中で、また、大人たちは将来を有する子ども達との触れ合いの中で“湖北の宝”を確かに発見出来た素晴らしい事業になりました。



江・浅井三姉妹博覧会連携イベント

『湖北ジョイントフェスタ2011』

～まちなか音ライブ!湖北に響く郷想曲～』

観光客と帰省者でにぎわう8月13日(土)、音楽と長浜の街並みや湖北の歴史文化資産を融合させ、まちなか全体をステージと見立てたまちづくり事業「湖北ジョイントフェスタ2011～まちなか音ライブ!湖北に響く郷想曲～」を、昨年の豊公園での開催に引き続き、本年は江・浅井三姉妹博覧会との連携により、豊公園、長浜八幡宮、曳山博物館広場および江・浅井三姉妹博覧会場(小谷会場・浅井会場)など湖北一帯を会場とした大規模な事業となって開催いたしました。

豊公園ホールではヤマハグループとの連携により「ミュージックレボリューション(23歳以下の全国大会まで繋がるオーディション)」を同時開催いたしました。また大小合計12ヶ所に及ぶ各ステージ毎のスケジュールに合わせて、学生達のロックや軽音楽、吹奏楽、地元コーラス隊による合唱、アコースティック、大正琴の演奏、よさこいソーランの演舞、保育園児による鼓笛隊など、世代を越えて誰もが見て聴いて楽しめる音楽祭となりました。



メイン会場である長浜八幡宮ホール、豊公園ホール、曳山博物館ホールと長浜駅前広場とにユーストリムが設置され、イベントの様子をワールドワイドに発信することが出来ました。

日も暮れ、各会場が次々とエンディングを迎えイベント全体も終盤にさしかかると、会場内の全員が同時刻にタイミングを合わせ、スマップの名曲「世界にひとつだけの花」を大合唱し、会場の垣根を越え街中が音楽で響き渡り、世代やコミュニティの垣根を越えた人々の熱気が溢れかえる中、この壮大なイベントは閉幕を迎えることが出来ました。

会場が離れていてもそれぞれが繋がりが合った一体感からは何とも言えぬ感動を覚え、湖北16万人の心をつつにし、「日本一元気なまち湖北」の実現に向けて確実に一步を踏み進めた事業となりました。

湖北コア・イノベーション構想推進事業

『ディスカバーKOHOKU2011

～マスマス輝け!!湖北の未来～』

10月16日(日)、西友長浜楽市店東側駐車場で、未来創造委員会による湖北コア・イノベーション構想推進事業『ディスカバーKOHOKU2011～マスマス輝け!!湖北の未来～』を開催いたしました。一般の方々を対象に湖北地域に眠るシーズ(種)を掘り起こし、湖北の新たな地域資産として経済発展に繋がるよう市民の方々の知識を広げていただくことを目的とした事業です。

大阪のイタリア料理店「La Lucciola」のシェフ・鈴木浩治氏や地元寿司職人による琵琶湖の固有種ビワマスを使った料理の試食会では思いもよらぬ美味しさに皆が舌鼓し、湖北地域で開発された技術を用いて雑草などから抽出したエタノールを使用して走行させるロードトレインには子ども達が乗車し大喜びしていただきました。また湖北地域の植物工場で生産されるアイスプラント(商品名;ツブリナ)や、有用成分を増加させる発芽技術を用いて発芽させた大豆を来場者に食していただくなど、湖北ブランドの潜在力の大きさを体験していただくことが出来ました。

船井総合研究所地域創造・活性化チームの栃尾圭亮氏による「地域資産のブランド化と流通」をテーマとした講演では、富士宮やきそばなどの“食トレンド”による地域の成功例を上げながら湖北の恵まれた潜在的シーズを用いた“食”による地域のブランド化を強く推奨されました。

この事業により、地域住民・行政・企業の多くの方が創造力(経済発展につなげる戦略を生み出す力)の必要性を感じられ、湖北経済の更なる発展に繋がる事業となりました。



経営者研修委員会 経営研修セミナー 「めざせ新企業!!第一章～戦略的思考力向上↑↑なう」

5月24・25日の二日間にわたり、経営者研修委員会による経営研修セミナー「めざせ新企業!!第一章～戦略的思考力向上↑↑なう」を、長浜商工会議所大ホール

にて講師にジャイロ総合コンサルティング株式会社シニアコンサルタント・研修事業部長の綿貫有二氏をお招きして開催いたしました。

1日目は「オンリーワンの経営戦略を創る」をテーマにSWOT分析を活用しての自社経営の戦略構築ノウハウを教えていただきました。講義の導入口として経営者研修委員会メンバーが経営に悩む青果店主の寸劇を演じて、戦略的思考やSWOT分析の必要性を解りやすく参加者に伝えました。その後複数のテーブルに分かれて講師の綿貫氏の指導の下、複数の経営ケースをSWOT分析してその使い方を学びました。

2日目は「売れる販売促進戦略を創る」をテーマにマーケティングの基本を教えていただきました。綿貫氏が長野県松本市で初めて塾を運営された時の苦労話などを交えてマーケティングの重要性をご教示いただいた後、参加者は複数のグループに分かれ「誰に」「何を」「どのように」売るとかという売れる仕組みを議論し、構築することにより、肝となる考え方を習得しました。

2日間のセミナーで学んだ自社分析とマーケティングのノウハウを、メンバーが自らの事業に持ち帰り業績を向上させるとともに、湖北経済をさらにステップアップするための重要なヒントを与えることが出来ました。



経営者研修委員会 経営研修セミナー 「めざせ新企業!!第二章～激変の時代を生き抜く力向上↑↑なう」

5月24日・25日に行われた事業『第一章～戦略的思考力向上↑↑なう～』に引き続き、7月2日(土)に経営者研修委員会の事業「めざせ新企業!!第二章～激変の時代を生き抜く力向上↑↑なう」を講師に元スーパーモーニングキャスター・蟹瀬誠一氏をお招きし、長浜バイオ大学・命江館にて開催いたしました。5月に開催された綿貫有二氏によるSWOT分析を交えた実践・体験型セミナーとは趣を異にし、前後半の2部構成で、前半は蟹瀬氏による講演、後半は蟹瀬誠一氏、一般社団法人バイオビジネス創出研究所シニアマネージャーの武内啓一氏、大塚産業クリエイツ株式会社代表取締役社長の大塚良彦氏と佐藤理事長によるパネルディスカッションを行っていただきました。

前半の蟹瀬氏の講演では、「今はインプット(情報)が多すぎる。マスコミや専門家のいうことはあまり信用せず、まずは自分の思ったことに自信を持つこと。直観力が大事である。」と述べられ、直観力によって成功を成し得たアサヒビール社長の井口氏、ネスレジャパン社長の高岡氏などの例を交えながら“直観的な経営者の発想”の大切さを説かれました。また、日本のブランド力を発展させグローバルマーケットに目を向けた経営者の発想と決断力が必要であると述べられました。

後半のパネルディスカッションで、武内氏はバイオ技術を基本にした韓国との提携によるビジネスの拡大を。佐藤理事長は家業である酒造業という立場から日本だけでなく中国や台湾に対してアルコールのブランド化を狙った動きを。蟹瀬氏は日本技術のブランド化によるグローバルマーケットへの参入とフェイスブックの活用など日本の外に目を向けた情報発信について持論を展開しながら白熱した討論をしていただきました。その中で蟹瀬氏は「(畑違いの)外部の血をどう上手く入れるか。外から人が入ってきてアドバイスをもらうことを恐れてはいけない。」と述べられました。青年会議所として広い視野で物事を見る大切さを伝えることが出来ました。



2011年度滋賀ブロック協議会公式訪問役員懇談会

6月8日(水)滋賀ブロック協議会役員委員団の皆様をお迎えし北ビワコホテルグラツィエにて6月例会公式訪問・2011年度滋賀ブロック協議会公式訪問役員懇談会を開催いたしました。

佐藤理事長の挨拶ではブロック役員団への御礼ならびに長浜のブロック出向者への労いの言葉、長浜青年会議所が携わる江・浅井三姉妹博覧会における来場者数50万人突破および年間目標100万人に修正したことの報告いたしました。

近畿地区滋賀ブロック協議会中島会長の挨拶では東日本大震災によって命を落とされた7名の青年会議所メンバーはじめ多くの方々への追悼の意と、全国の青年会議所が一丸となって被災地の復旧・復興に向けた動きをしていく意気込みを語られ、中島会長・佐藤理事長ともに青年会議所での活動の中で得られる出会いの尊さに重点を置かれたお話で会場内の青年会議所メンバ

ー全員を鼓舞され、会場は志高い雰囲気になりました。

続いて行われた滋賀ブロック協議会委員長と長浜青年会議所委員長によるパネルディスカッション「気分は朝まで生JC 今この時に何を考えるか」では、構想、社会情勢、震災をテーマに議論がなされ、見る側も新しい感覚ながらわかりやすくそれぞれの意見を伺うことが出来ました。

その後の懇親会では、オープニングとして秀吉の長浜城築城の祝いの場を演じました。長浜城の城主となった秀吉を我々社団法人長浜青年会議所になぞらえ、秀吉が来賓の皆様をお出迎えし、ブロック役員団を心からおもてなしする長浜青年会議所の心意気を感じていただくことができました。

家族会 感じよう!自然の恵みこの指と〜まれ

8月27日(土)『家族会感じよう!自然の恵みこの指と〜まれ』が体験型観光農園ローザンベリー多和田にて開催いたしました。

広大な敷地面積を持つ開放的な施設でカートに乗って移動しながら、農園での野菜の摘み採り、羊との触れ合い、クラフト作成、ジャム作りと様々な自然体験をし、またバーベキューによる食事を楽しみながら家族同士の懇親を深めることができ、普段の生活にはない環境の中、有意義な時間を過ごすことが出来ました。イベントの一つ羊レースでは、普段のんびりした羊が一斉に駆ける様子にびっくりしたり、羊毛を丹念に針を突ついて丸めクラフトを作成する一生懸命な子ども達の姿と、普段私達を支えてくれている家族への恩返しにとメンバーの家族に対する優しげな姿が微笑ましく、それぞれが思い出深い一日となりました。



会員旅行

「KIZUNA～笑いあり涙あり浪速人情編～」

10月22日（土）10月23日（日）の2日間に亘り、大阪の地で2011年度の会員旅行を行いました。1日目では難波・新世界地域で、昔ながらのジャンジャン横丁の串かつや、スマートボールなどで、古き良き時代の大阪を楽しみました。夜の懇親会では旅行と言うこともあり時間を忘れメンバーと多くの時間を共有する事が出来ました。2日目には水都大阪フェスに行きました。立場をこえ官民一体となって作り上げているこのフェスに参加した事で今後の我々の活動においても刺激となりました。2日間を通して日々の喧騒を忘れ時間を気にすることなくゆっくりとメンバー同士の懇親を深める事が出来ました。



11月公開例会

11月8日の11月例会では、長浜バイオ大学を会場に、広く一般の方々に公開し参加できる公開例会として開催いたしました。講師に“世界を変える100人の一人”、“反屈のジャンヌ・ダルク”と称される若き起業家・山口絵理子氏(30)をお招きし、氏が单身世界最貧国と言われるバングラデシュにて24才で起業され、文化や言葉の壁、盗難など数多の苦難や挫折を乗り越えられながら、現在ではバングラデシュとネパールにバッグや服飾雑貨の直営工場と、東京、福岡、大阪、台湾などに8つの販売店を持ち、デザイン・製造・販売の全てを展開される途上国ブランド「株式会社マザーハウス」を設立されるまでのエピソードを『挑戦する



心～そして社会を変える～』をテーマにご講演いただきました。来場者の方々は波乱万丈の山口氏のお話に終始固唾を呑んで耳を傾けておられました。山口氏の公演を地域の方と共に何うことで自らの可能性に挑戦する気持ちを高め、元気な湖北の源を作る事が出来た考えます。

2011FTセミナー しるシル見知る湖北 J C サイクリング～熱き想いに触れる～

11月19日（土）、過去の幾多の困難にも負けず立て直してきた地域の歴史を調べ学ぶ事業としてFT事業を開催いたしました。事業当日は雨の降る中、余呉駅から元気よく自転車をこぎ出して行きました。各チェックポイントで行われたFT発表はととてもわかりやすくまとめられており、地域の歴史を学び先人達の熱い想いに触れる事ができた素晴らしい事業となりました。プログラムの終了後に青春の居酒屋を開催することでFTメンバーを中心に、参加して頂いた他のメンバーの方も含め、交流を深める事が出来き、有意義な時間を過ごす事が出来た一日となりました。



2011年度 褒賞申請

本年度、滋賀ブロック協議会に於いては湖北コア・イノベーション推進事業「湖北ジョイントフェスタ2010～音の輪 人の和 湖北の〇～」を、JCIアワード申請に湖北コア・イノベーション構想推進事業「let's Learn the kohoku 2010 元気MORIMORIアドベンチャー～！」を申請しました。滋賀ブロック協議会申請では、申請方法の変更に伴いプレゼンテーションをより分かりやすく効果的に演出していく事で、事業自体がわかりやすくするとともに、昨年度提唱した湖北コア・イノベーション構想への理解を更に深め、一年目での役割、そして今後の展望を深く考える事が出来ました。その結果、準グランプリを受賞する事が出来ました。JCIアワード申請に於いては全国での活動内容を深く知ることができ、今後の事業を組み立てていく上での一助になったと考えます。申請にあたったメンバーは、知識の深い者から経験の浅い者まで幅広くそろえることで、意見の交流や考え方を多方面から行うことができ、今後のより良い事業を組み立てていく上での一助になったと考えます。